

## 「学生による授業アンケート」集計結果と今後の対応

21世紀は「知の大競争時代」、「知識基盤社会」といわれており、大学は「知の創造と継承の拠点」として位置付けられている。

平成19年7月、大学設置基準等の一部が改正され、平成20年4月1日より施行された。改正の目的は、学部段階等の教育力向上を図ることである。その具体的な一つとして、教育内容等の改善のための組織的な研修等があり、大学は、その授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとするところとある。いわゆるFDについて、これまで努力義務であったものを義務化するものである。これは各教員に対し義務付けるものではなく、各大学が組織的に実施することを義務付けるものである。今回の改正を踏まえて、各大学においては、実際に授業の内容及び方法の改善につながるような内容の伴った取組みを行うことが期待されると記述されている。

このような義務化に伴い、本学においても、大学教育の質の向上をはかるために、総合教育開発センターの高等教育改善支援部門を改称し、「FD委員会」として平成21年度からスタートすることになった。

「平成19年度私学大学教員の授業改善白書」（私立大学情報教育協会）に見られるように、大学教育の現状と問題点として、少子化に伴い、大学入学のバリアーは低くなり、基礎学力不足、学習意欲低下が指摘され、各大学では必死の努力が始まっている。入り口から出口まで、学生の学びを支援し、やる気を起こさせ、最終的に就職まで指導していく、きめ細かな対応が大学に迫られている。

本学において、平成20年度は前年度に引き続いて、「学生による授業アンケート」を実施した。その実施状況についてふれたい。詳細なデータについては、前期分は平成20年9月の教員研究会で、後

期分については平成21年2月の全学教授会で報告した。未実施科目の中で本アンケートを実施し難い特定の科目を除外すると、その実施率は90%以上であり非常に良好といえる。未実施教員について、1科目を担当の非常勤講師の方が実施忘れという場合が若干あるが、意図的に実施しなかった専任教員が、前・後期通じて二十名程度いる。平成21年度も引き続き本アンケートを実施していくが、教員各位の協力をお願いしたい。

また平成20年度前・後期の2回にわたって教員の授業公開を行ってきた。前期に11名、後期に10名の専任教員、とくに後期は平成19、20年度から採用の先生方を中心をお願いした。公開授業を快諾していただいた先生方は、工夫を凝らして授業、実習をしていただいた。残念であったのは、参加された教員が非常に少なく、また限られていたことである。授業公開は各大学においてFD活動の一環として積極的に進められており、本学においても地道な努力を続けていく必要が痛感される。今、大学では教員各自に「教育力の自己点検」が求められており、「優れた授業を評価・顕彰する制度の導入」も一案であろう。FDを推進するためには教員相互に問題意識を共有することが必要である。

平成20年度前期の授業アンケートを次にまとめた。このアンケートで見てきた学生からの意見を参考にして、各教員の授業改善の一助にさせていただきたい。平成20年度後期の集計結果については、まとめができ次第報告する予定である。なお、平成21年度初めに、20年度の「学生による授業アンケート」に対する「教員からのコメント」を専任教員にお願いすることを予定している。

大きく、20人以下の授業と比べて100人超の授業の平均が0.71ポイント低くなっている、一方、項目5（「授業に対する教員の熱意はどうでしたか」）では減り方がいくらか緩やかである（0.52減）。履修者が増えると、「誠意をもって学生に接し、質問等に親切に答えた」と学生に感じさせる対応が難しくなることは、素朴な直感とも合致するところである。「学生自身に関する項目」では項目10（「あなたはこの授業に満足できましたか」）の減り方が大きく、100人超の授業の平均は20人以下の授業よりも0.80ポイント減っている。減り方が小さいのは項目5（「あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか」）である（0.51減）。

### まとめ

最後に、今回の分析で示されたことをまとめるとともに、それらを踏まえて、今後に向けての課題を整理しておこう。

- 平均して「教員の熱意」は比較的高く評価されているが、「説明の仕方のわかりやすさ」は授業毎にバラツキがあり、平均もやや低くなっている。今後も教え方の工夫を重ねていく必要があるということだろう。また、シラバスの活用にもやや問題があることが示されている。

- 履修者が多い授業ほど、アンケート得点の平均が下がる傾向にある。このことは授業形態（講義、演習、実験・実習・実技）によらず共通している。

- 演習科目や実験・実習・実技科目に比べて講義科目では履修者数の多い授業が多く、このことが講義科目の平均を下げる一因となっている。

- 履修者が増えるときにアンケート得点の下がる原因（メカニズム）を解明できれば、何らかの対策を講じることが可能になる。今回の分析では、項目毎の分析が多少のヒントを与えてくれる。履修者が増えても「誠意をもって学生に接し、質問等に親切に答えている」と感じさせる授業にできれば、得点の下がり方を抑えることができるだろう（「言うは易し…」だが）。

- 履修者が多い授業の中にも4.5点に迫る高得点を得た授業が存在する。このような、「履修者数が多いにもかかわらず評価の高い授業」について、その特徴をさまざまな角度から分析することが必要である。また、そうした授業を公開し、多くの教員に参観してもらうことも有益なことだろう。

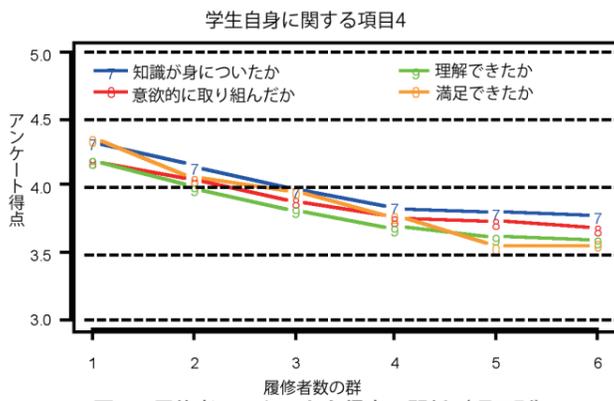
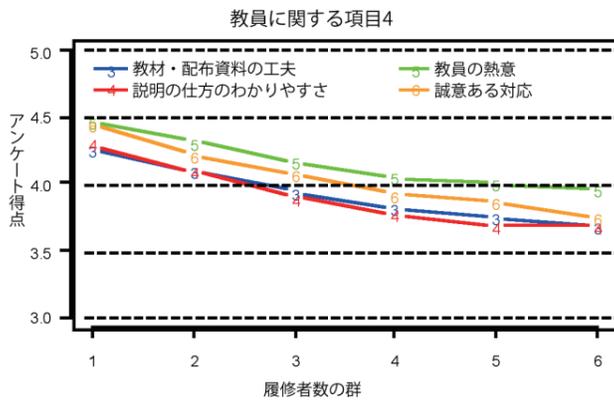
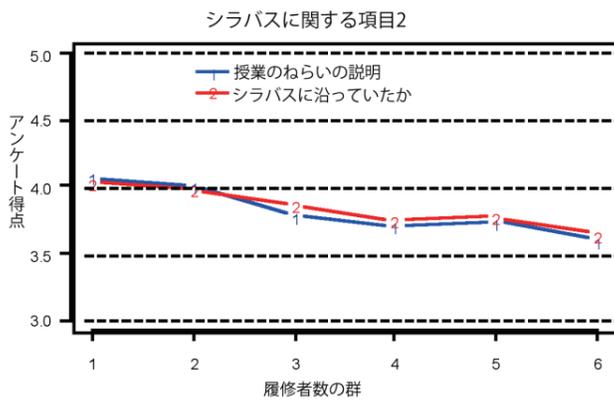


図3 履修者アンケートと得点の関係（項目別）

関係を図示したものである。

履修者数が多い授業で得点の下がる傾向は、すべての項目に共通しているが、その下がり方は項目ごとに若干違っている。「シラバスに関する項目」はもともとの得点が高いこともあってか、減り方は緩やかである。「教員に関する項目」では、項目6（「教員は誠意をもって学生に接し、質問等に親切に答えてくれましたか」）で減り方が

授業アンケートで用いた 10 項目

表 1 平成 20 年度前期アンケート 10 項目と、アンケートを実施した 969 授業の平均・標準偏差

|  | 平均   | 標準偏差 |
|--|------|------|
| 1 シラバスを用いて授業のねらいや学習目標は説明されましたか         | 3.88 | 0.40 |
| 2 授業はシラバスに沿って行われましたか                   | 3.92 | 0.36 |
| 3 授業に興味を持てるように、教員は教材、配付資料等を工夫していましたか   | 4.00 | 0.47 |
| 4 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか                 | 3.99 | 0.56 |
| 5 授業に対する教員の熱意はどうでしたか                   | 4.21 | 0.43 |
| 6 教員は誠意をもって学生に接し、質問等に親切に答えてくれましたか      | 4.17 | 0.47 |
| 7 この授業を受けて新しい知識・技能、物の見方・考え方などが身につきましたか | 4.10 | 0.44 |
| 8 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか                | 4.06 | 0.41 |
| 9 あなたはこの授業を理解できましたか                    | 3.98 | 0.48 |
| 10 あなたはこの授業に満足できましたか                   | 4.13 | 0.50 |
| アンケート得点                                | 4.02 | 0.42 |

平成 20 年度前期の授業アンケートでは、表 1 の 10 項目について、1 から 5 の 5 段階での評定を求めた。最初の 2 項目がシラバスに関する質問、3～6 の 4 項目が教員に関する質問、7～10 の 4 項目が学生自身に関する質問となっている。これらの項目について授業毎に履修者の評定を平均したものを各授業の得点とし、授業アンケートを行った 969 の授業全体での平均と標準偏差を求めた（表 1）。平均が最も高かったのは項目 5、最も低かったのは項目 1 であり、教員の熱意は高く評価されたがシラバスの活用についての評価はやや低いという結果となっている。標準偏差に注目すると、授業毎のばらつきがもっとも大きかったのは、項目 4（説明のわかりやすさ）であったことがわかる。

以下では、10 項目に対する各学生の回答平均（アンケート得点と呼ぶことにする）が、授業の履修者数にどのような影響を受けるのかを詳しく分析していく。

授業の履修者数は、アンケート得点にどのような影響を与えるのか？

履修者数が多いほどアンケート得点の下がることは、これまでいろいろところで繰り返し指摘されてきた。

図 1 は 969 の授業について、履修者数とアンケート得点の

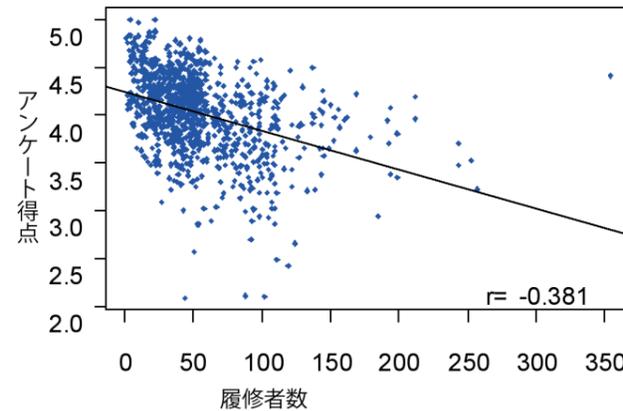


図 1 履修者数とアンケート得点の間の散布図

関係を散布図で表したものであるが、この図からも、履修者数が多いほどアンケート得点が低くなるという関係を読み取ることができる。

1 授業当たりの履修者数（授業形態による違い）

表 2 は、授業形態別に履修者数の分布をまとめたものである。講義科目では 56% に当たる 256 の授業で履修者数が 61 人以上であるが、演習科目、実験・実習・実技科目では履修者数が 61 人以上の授業は、約 5% に過ぎないことがわかる。演習科目では 20 人以下の少人数授業の割合

表 2 授業形態別、履修者数の分布

|          | ～20人 | 21～40人 | 41～60人 | 61～80人 | 81～100人 | 100人～ | 計   |
|----------|------|--------|--------|--------|---------|-------|-----|
| 講義       | 58   | 61     | 82     | 67     | 85      | 104   | 457 |
| 演習       | 75   | 79     | 93     | 11     | 1       | 0     | 259 |
| 実験・実習・実技 | 16   | 116    | 109    | 5      | 5       | 2     | 253 |

が 3 割近くを占めているのも目につく。

授業アンケートデータの分析において、演習科目や実験・実習科目のアンケート得点が講義科目と比べて高くなることもよく指摘される事実である。今回のデータでも、アンケート得点の平均は、講義科目で 3.89、演習科目で 4.17、実験・実習・実技で 4.12 となっているが、演習科目、実験・実習科目 > 講義科目となる原因の一半は、1 授業当たりの履修者数の違いに求められるかもしれない。

履修者が増えるときのアンケート得点の下がり方

表 2 にある履修者数の 6 群（～20 人、21～40 人、41～60 人、61～80 人、81～100 人、100 人超）単位で、アンケート得点の平均がどう変わるかを、授業形態別にまとめたのが図 2 である。この図から、(1) 履修者数が 40 人以下の授業（図 2 における横軸 1 と 2）では、授業形態によらずほぼ同程度の平均となっていること、(2) どの授業形態でも履修者数が増えると平均アンケート得点の下がることを読み取れる。これらのことも、履修者の多い授業の存在が講義科目の平均点を下げていることを示している。

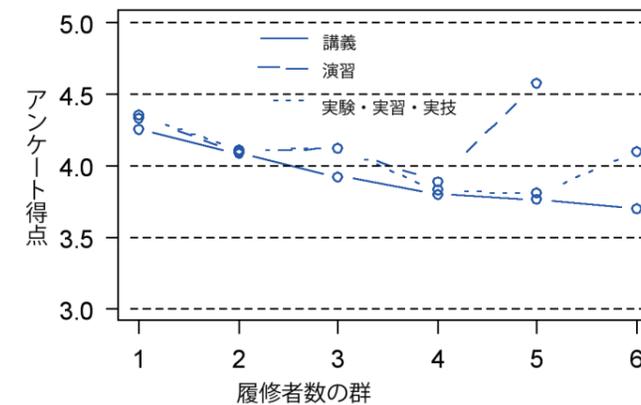


図 2 履修者数とアンケート得点の関係

講義科目では履修者が増えるとアンケート得点の平均がほぼ直線的に下がっていくのに対して、演習科目、実験・実習・実技では、41 人～60 人の授業で少し平均が上がっているが、これが今回のデータにかぎらず一般的な現象なのかどうかは、さらに別のデータで検討する必要がある。また、演習科目では 81 人以上の授業で、実験・実習・実技科目では 100 人超の授業で平均が大きく上がっているが、この部分の授業数が 1 ないし 2 しかなく、考察は保留せざるをえない。

講義科目における履修者数とアンケート得点の関係

ここからは講義科目に限定して、履修者数が増えることが、アンケート得点にどう影響するのか、もう少し詳しく見ていくことにしよう。表 3 は、講義科目について、履修者数別に、アンケート得点の分布をまとめたものである。4 点以上の得点を得た授業を、仮に高評価授業とすると、履修者数 20 人以下の少人数授業では、98% がこれに該当するが、履修者数が多くなるにつれて 93%、88%、88%、73% となり、100 人以上の授業では 70% にとどまっている。最高点に注目しても、20 人以下の授業では 4.83 という高得点の授業が存在するが、履修者数の多い授業ではこのような高得点は得られなくなっている。また、40 人以下の授業では、最低でも 3.3 点を得ているのに対し、40 人を越える授業では 2 点台の授業が存在する。

このように、履修者が多くなると高い評価を得ることが難しくなることはたしかなようであるが、同程度の履修者数の授業内でのアンケート得点のばらつきはかなり大きく、履修者 100 人以上の授業の中にも 4.49 というかなり高い得点を得た授業が存在することにも、注目すべきかもしれない。履修者が多いにもかかわらず高いアンケート得点を得る授業の特徴を解明することは、今後の重要な課題の一つであると思われる。

表 3 履修者数とアンケート得点の分布

|      | ～20人 | 21～40人 | 41～60人 | 61～80人 | 81～100人 | 100人～ |
|------|------|--------|--------|--------|---------|-------|
| 2.5点 | 0%   | 0%     | 1%     | 0%     | 1%      | 3%    |
| 3点   | 0%   | 0%     | 0%     | 1%     | 4%      | 4%    |
| 3.5点 | 2%   | 7%     | 11%    | 10%    | 22%     | 23%   |
| 4点   | 21%  | 26%    | 37%    | 66%    | 39%     | 44%   |
| 4.5点 | 50%  | 59%    | 51%    | 21%    | 32%     | 26%   |
| 5点   | 28%  | 8%     | 0%     | 1%     | 2%      | 0%    |
| 最高点  | 4.83 | 4.68   | 4.48   | 4.53   | 4.55    | 4.49  |
| 中央値  | 4.27 | 4.15   | 4.00   | 3.82   | 3.79    | 3.74  |
| 最低点  | 3.50 | 3.30   | 2.08   | 2.89   | 2.10    | 2.09  |

項目ごとの検討

つぎに、1～10 の項目別に、履修者数の増加の影響を吟味する。アンケートは 10 個の項目からなるが、図 3 は、これらをシラバスに関する項目 2、教員に関する項目 4、学生自身に関する項目 4 に分けて、履修者数と項目得点の